



今年初の通信を発行します。早いものでもう、1月も後半になってきました。びっくりですね。

温暖差があり、体調が整わないですが十分気を付けて過ごしていきましょう。さて去年オープンシステムにて出産されました、お母さんより手記が届きましたので掲載させていただきます



『もう昨年のことになってしまいましたが、、、』

2022年4月に無事に第三子を出産しました。なんと嬉しいことに初の女兒！ただ今、3年ぶりの赤ちゃんとの生活真っ只中です。

振り返ると、2人目次男を出産したほんの数日後、夫に「もうひとり女の子ほしい」と言われ、嘘でしょ、と呆れました。それが、次男がだんだん成長すると、私もなんとなく、もうひとり子どもが居てもいいなあと考えるようになっていました。

ですが、産み始めた年齢が遅かった我々夫婦、授かること自体が難しくなる年齢にはなってきたので、一応タイムリミットを決めました。その中で稽留流産も経験しました。仕方ないことだと頭ではよく分かっていたのですが、悲しくて涙が止まりませんでした。やっぱりそういう年齢なんだな、と思いました。それから、命は本当に奇跡のかたまりなんだと、思い知らされました。たくさん、ありがとうを言って、さよならをしました。

それから数カ月後に4回目の妊娠。心拍が確認でき、少しずつ卵が成長していくのを見て、ほっとしました。タイムリミットにも間に合い、最後のマタニティライフを楽しもう！味わおう！と思っていましたが、これがまたつわりが長くてしんどかった。特段日々頑張りすぎているわけではなかったのに、これも加齢ということだったのか？その間、夫が育児も家事も頑張ってくれていました。本当に頼れる夫。ありがたい存在です。

次男に続き、今回もまた予定日を超え、先生方をハラハラさせましたが、40週5日明け方に破水し、それから2時間とちょっとで産まれてくれました。長男、次男の出産時は、毎回分娩台に行き、最後に産院の中村先生を登場させていましたが(中村先生いつも最後の砦をありがとうございます！)、今回は畳の部屋で、大橋先生の介助を受けながら自力で産むことができ、なんだかものすごい達成感がありました。しかも女兒！私たちのところに女の子がやってきてくれるなんて！産まれてきてくれてありがとうって、心から思いました。

「ぜったい男の子が良い！」と産まれる前ずっと言い張っていた5歳長男ですが、「一番可愛い！一番好き！」とそれはそれは舐めまわすように愛でています。ちなみに母は3番目だそうです。あんなに私から離れなかった子が。どんどん離れていきます。嬉しい、寂しい、成長です。

3歳次男は、始めは嫉妬が入り混じっていましたが、今や毎晩朝までくっついて寝ています。話しかける時は猫撫で声。ほんのちょっと前まで、あなたが赤ちゃんだったのにね、と微笑ましいものです。

夫はもちろん目尻下がりっぱなしで、毎日「可愛いなあ」を連呼。夜泣きすると起きて抱っこを代わるといふ、これまでは見られなかった光景に、女兒の力の凄さを感じます。

毎日てんやわんやの日々ですが、そんな家族それぞれの反応も本当に愛おしく、ああ、幸せだなあ、ありがたい、と思うのです。あと5歳若かったら、もうひとり産みたいと思ったことでしょうか！

ところで、女の子はなんか違う？とよく聞かれるようになりました。穏やかであり手がかからないなと思いますが、女の子だからなのか、わたしも子育て3周目になったからなのか、どうなのでしょう。お洋服選びが楽しくて、ついあれもこれも買ってあげたくなってしまっています。どんな子になるのか、どんな人生を送るのか、とても楽しみにしています。第一子の妊娠から、すべての経過を見守り心身を支えてくださっている大橋先生さん SUN 助産院のみなさま、本当にいつもありがとうございます。おかげさまで、おかげさまで、おかげさまで、3人の母になりました。万歳！！

「今は大変な時期かもしれないけれど、あとから思うと育児している時が一番幸せな時だったよ」と大橋先生が言ってくくださった言葉を胸に、今日も夫と子どもたちと生きています。』

坂本美保さん